

3. 大気汚染濃度予測モデル

(1) 固定発生源

1) 工場・事業場

昭和52年度固定発生源基礎調査を基に主要工場（煙突高50m以上もしくは、燃料使用量5,000トン以上—重油換算—）を点源扱いとし、その他は面源扱いとした。

○点源 97本 ○面源 604メッシュ（統計メッシュ）

又、面源の有効煙突高は次の三種類の代表高を用いて分類した。

上：50m； $35m \leq H_o < 50m$

中：35m； $15m \leq H_o < 35m$

下：15m； $H_o < 15m$ 但し、 H_o は各工場の実煙突高。

排出ガス総量硫黄酸化物排出量及び窒素酸化物排出量の算出方法

点源の有効煙突高算定のために必要な排出量及び点源・面源の拡散計算に必要な硫黄酸化物排出量、窒素酸化物排出量は、環境管理計画基礎調査データに基づき、各々次に示す式により算出した。

排出ガス総量 $q_w = K \cdot W (21 / (21 - O_2))$

q_w ；排出ガス量計算値 (Nm^3/h)

K ；排出ガス係数

W ；燃原料使用量 ($\ell, , kg, Nm^3/h$)

O_2 ；残存酸素量 (%)

W は基礎調査の値を、 K 、 O_2 は各々表4-1・表4-2に示す値を用いた。

イ 硫黄酸化物排出量

硫黄酸化物排出量は、燃料種類別に次式を用いて算出した。

液体燃料 $q_s = 0.007 W P S$

固体燃料 $q_s = 0.007 W S$

気体燃料 $q_s = 0.01 W S$

但し、 q_s ；硫黄酸化物排出量 (Nm^3/h)

W ；燃原料使用量 ($\ell, kg, Nm^3/h$)

P ；比重

S ；硫黄分 (%)

W 、 P 、 S は工場・事業場で使用している燃料の値を用い、不明なものは S 分比（表-10）、及び燃料別発熱量（表-11）に示す値を用いた。